

教育心理学研究室

Educational Psychology Lab｜日本大学経済学部｜担当：山森光陽

人の育ちと学びの一般的傾向と個人差を解明し，より「よい」教育のありかたを探究する

lab.educpsychol.com

教育心理学とは

- 人を「よく」したいという欲求に支えられた，人間を特徴付ける行為である教育の心理的メカニズムを実証的に明らかにし，理論構築を目指す。
- 蓄積された研究知見群を参照しながら，より「よい」と思われる学び方，教え方，関わり方を導き，その効果と効果がもたらされる過程を反証可能な形で記述する。

人はどうすると「よく」なっていくのかを，実験や調査で確かめ，そのプロセスを確からしく，できるだけシンプルに説明する研究に取り組んでいます。

研究室小史

2003年　国立教育政策研究所に着任

教育心理学担当の研究員（文部科学教官）として，旧第3研究部（教育心理）第2研究室（測定評価）を引き継ぐ形でスタート。関心・意欲・態度の評価の信頼性，クラスサイズに関する委託研究。

2011年　主任研究官，2012年から総括研究官

クラスサイズの研究が，義務標準法（学校の1クラスの人数の上限）の改正につながる。

2024年　日本大学経済学部に教授として着任

「発達と学習」（教職課程），一般教養「心理学」などを担当。小1から中2までの8年間の追跡調査，生理心理学的手法による教師の認知負荷測定，授業中の児童の行動記録のパネルデータ化に取り組む。



左から：国立教育政策研究所（目黒），同（霞が関），日本大学経済学部（神田三崎町）

研究環境

- 教育心理学を中心とした1,500冊の蔵書（うち900冊は電子ファイル）。ラボ生は閲覧と貸出ができます（電子ファイルは端末で貸出）。
- 高速演算が可能なコンピュータ，質問紙調査の実施と処理のための機器，ラボ生が使える端末，室内LAN。
- 冷蔵庫とコーヒーメーカーもあります。

教育心理学の研究に必要な資料や機材は，一通り揃っています。







受け入れ研究費

- 文部科学省委託研究（2006–2007）：1億円
- 科研費 若手B（2009–2012）動機づけの経時的変化：286万円
- 科研費 基盤B（2013–2016）クラスサイズ（3年のパネル）：1,573万円
- 科研費 萌芽（2016–2017）ウエアラブルセンサを用いた学習行動の把握：325万円
- 科研費 基盤A（2017–2021）クラスサイズ（3年＋5年のパネル）：3,796万円
- 科研費 基盤B（2022–2026）授業中の児童の行動記録のパネルデータ化：2,080万円

科研費の配分額は計8,060万円。国内の教育心理学のラボの中では，研究費が比較的潤沢です。



担当教員

山森光陽（やまもり こうよう）

日本大学経済学部教授，博士（教育学）広島大学大学院・山形大学客員教授

東京大学，慶應義塾大学，早稲田大学大学院非常勤講師

専門：教育心理学

- 研究テーマ：学級規模が教師と児童生徒に与える影響，クラスルームアセスメント，生体情報を用いた実験的授業研究
- 慶應義塾大学文学部卒業，早稲田大学大学院教育学研究科修士課程修了，博士課程中退。国立教育政策研究所 研究員，主任研究官，総括研究官を経て現職
- 東京大学，早稲田大学大学院，慶應義塾大学 非常勤講師

主要業績

- Yamamori, K. (2024). Class size difference in the five-year trajectories of elementary school students' Japanese-language standardized achievement scores. Educational Studies in Japan, 19, 91–106.
- 山森光陽 (2023). クラスサイズによる小学校第1学年から第5学年終了時までの国語の学力偏差値推移の違い 教育学研究, 90, 273–284.
- 山森光陽ほか (2023). 生理心理学的指標を用いた授業中の教師の認知負荷の把握 日本教育工学会論文誌, 47, 127–139.
- 山森光陽ほか (2022). クラスサイズ及び学校移行に伴うクラスサイズの変化が小学校第4学年から中学校第2学年までの国語，社会，理科の学力偏差値推移に与える影響 発達心理学研究, 33, 391–406.
- 山森光陽ほか (2018). 加速度計を用いた小学生の授業参加・課題従事行動の把握 日本教育工学会論文誌, 41, 501–510.
- 山森光陽 (2016). 学級規模の大小による児童の過去の学力と後続の学力との関係の違い 教育心理学研究, 64, 445–455.
- 著書：山森光陽・荘島宏二郎 (編) (2006). 学力 ミネルヴァ書房／前田啓朗・山森光陽 (編) (2004). 英語教師のための教育データ分析入門 大修館書店
- 監訳：Hattie, J. (2009). Visible Learning.（山森光陽 監訳 (2018). 教育の効果 図書文化）

外部機関・自治体・学校との関係

- 日本教育心理学会『教育心理学研究』編集委員，東京都教育委員会 東京都学力向上施策検討委員会委員
- 香川大学教育学部附属高松小 研究開発学校運営指導委員，港区立港陽小・中学校，にじのはし幼稚園 学校運営協議会長，宮城県教委 初任者研修講師
- 過去の委員歴：山形県教委，香川県教委，座間市教委（教育指導計画，学校施設適正化委員長），荒川区教委

調査や実験に協力していただける自治体や学校との関係を構築し維持しています。

ラボとゼミナール

- ラボ（LABoratory，研究室）は，教員と学生が共に学び手を動かしながら，共通の研究課題に取り組んだり個別の研究を進めたりする場所です。学部生であっても研究者集団の一員として，互いによい影響を与えあいながら個人研究，共同研究に取り組み，学問の発展に寄与する知見を創り出します。
- ゼミナールは，自身の課題や他のメンバーの研究に役立つ資料を持ち寄って討議し，その成果を自身と他のメンバー双方の研究に還元する時間です。

学問は「分かち合い」によって紡がれています。

日々のラボ生活

- **毎週水曜日の午後は研究室活動：全員出席が前提です。**
- 教員研究室やラボ生どうしの雑談（雑談から大きな研究に発展することがあります）。
- Study circle（本学部の教育効果を研究できると6,000人の役に立ちます）。
- 半学半教：担当教員は経済学がよく分かりません。ラボ生には担当教員に経済学を指導することを求めます。
- 履修してほしい科目（入室条件ではありません）：産業・組織心理学，行動経済学，統計学，計量経済学 など
- ラボ生がやりたいことはできるだけ実現させます。**2026年度から研修旅行を実施しています。**

3年間のラボ生活

2年生

国内外の研究動向を調査し，使われている方法論を学び，研究課題を変えたり絞り込んだりする。最初の興味関心を大切にしながら，研究主題を練り上げる。

3年生

先行研究をまとめて自身の研究を学問の流れに位置づけ，結果を見通した研究計画を立案する。論文の「問題と目的」「方法」を書く。

4年生

調査や実験をして結果を考察し，「結果」「考察」を書いて研究論文を仕上げる。

取り組んでほしい研究

- インパクトの大きい先行研究の追試実験
- 類似の研究知見を収集・統合し，指導方法や教育環境の平均的な効果と，効果を左右する要因を明らかにする分析
- 公開されている大規模データの二次分析
- 個人差と教育方法・環境の組み合わせによって効果が異なる現象（適性処遇交互作用）の実証
- 効果的とされている教育方法の費用対効果（教育心理学と経済学をつなぐ）
- 社会科教育の心理学，教科書や資料の効果的な提示方法，ちょっとした指導技術の効果

ラボから年に1本程度は，学会発表や学術誌のショートレターとして投稿できるレベルの成果物が出るように指導します。

できること・できるようになること

- 教育に関する，人を対象とした実証的な研究（教育心理学の範疇を少し超えても大丈夫）
- 教育心理学の歴史に関する研究（ほとんど研究されていない領域）
- 人文社会科学共通の実証研究の方法。経済学専門の研究室と同様に，R（統計パッケージ）やLaTeXのスキル
- 効果的な学習指導の方法や技術を深く研究し，身につけること

できないこと・できるようにならないこと

- 教育とは関係のない研究，臨床心理学（指導できません）
- 組織心理学，行動経済学（専門の先生が本学部に在籍しています）
- 他人の心を読むこと，臨床心理学的援助ができるようになること

ラボの強みと弱み

強み

- 経済学部の学生の強みを生かした研究で，教育心理学の研究知見群の確からしさを高められる
- 担当教員が行っている研究の一部を分担することも可能。調査や実験のフィールドを多めに持っている
- プログラミングや文献研究にも熱心に取り組む，真面目で優しい学生が集まっている

弱み

- まだ卒業生がおらず，role modelを直接見る機会が十分ではない（過去に縛られないともいえます）
- 担当教員が他のゼミの動向を十分に把握できていない（ラボ生の自主性に期待します）
- 実験施設を持っていない（体液の分析，動物実験，暗室やハーフミラー越しの観察が必要な実験などはできません）

入室する学生への希望と選考

- 研究知見は他者の意思決定や学問領域の潮流を左右しうることに対する倫理観を持っていること（全ての成果物は公開し，国内外の研究者が使えるようにします）
- 理論と方法をしっかり学び，その成果を分かち合えること
- 教養の研究室ですが，「経済学部を卒業しました」と言えるように経済学関係科目も学修すること
- 選考方法：Application formの提出，担当教員との面接，ラボ学生との雑談
- 選考基準：研究したいことの大枠が指導可能な内容か，互いによい影響を与えあいながら研究に取り組めるか，現ラボ生がともに学びたいと思えるか

教育に関する，人を対象とした実証的な研究に取り組みたい学生に向いているラボです。ラボの文化を一緒に創っていきましょう。

経済学部には100以上のゼミナールがあり，教育学や心理学に関係する研究室も他にあります。たくさんの情報を集めて比較検討し，悔いの残らない3年間を過ごしてください。